



ご挨拶

みなさん こんにちは、いかがおすごしでしょうか？昨日までフィリピンのマニラ・バコロドにいて、とてもたくさんのお経験をさせていただきました。実は旅行の目的は自分の精神・肉体の疲れを吹っ飛ばし「自分復活」のためでした。しかしそれどころではなく、寝ている時以外は10分と休むことはなく、強行軍でした。後ほど詳しくご報告致します。お楽しみにして下さい。

院長より

(1)いつもお話ししていることですが、テレビ等の媒体の正確でない情報をいまだに信じられていらっしゃる方が多いようです。ご自身でいつときいつとき 考えてみてください、疑問に感じたら、それはおかしいことです。一例をあげると血圧の値です。「先生、血圧が130/で高くなりすぎています、どうしたらいいのでしょうか？」「110/、低すぎてしまいましたどうしましょう？」どこかでいい加減な情報が刷り込まれてしまっているのですね。もちろん両方とも全く問題はありません。若い人、高齢の方。脳梗塞、心筋梗塞、糖尿病、大動脈瘤、脳動脈瘤、心臓手術の術後、慢性心不全、腎不全等の疾病によって、それぞれ目標とする血圧値が違ふのです。また、健常の人でも、一日中同じ血圧であるはずはありません。高くなったり、低くなったり、で生きているのです。簡単に言えば、大体、一定の範囲を保っていれば、ばんばんざいです。では話はこれまで。

(2)また以前話した、岡村院長の考えですが、病気とは患者さんと医者が半分半分の責任があると思います。というよりも、患者さんが病気の半分を治すことができるということです。一方、がんが発生してから一般の検査で発見ができるまで15年から20年かかるといいます。つまり早期でも末期でも発見されたときはすでにこれだけ時間が過ぎているのです。だから発がんのスイッチをいれる、喫煙・アルコール・不衛生・偏食・肥満・ストレス等に対して、ご自分で行う予防も大切という事になります。次回のがんにならない、なんとか糸をいっしょに考えていきましょう/次号にて。

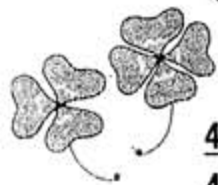
(3)患者さんが帰った後で、カルテを見直し、何か抜けていないか、治療がこれでいいのか、もっともっと小さな奇跡を起こせないか？などを院長はくりかえし検討しています。





(4)どこかの国へ行ったとき、そうドイツでしたね、医療は芸術だ、と大きな病院の壁にゲーテの顔が一面にかかれています。医学は芸術だといってもいいでしょう。芸術をつきつめると医療に向かい、医療をつきつめると、芸術に達し、まさに芸術的行為となります、とおもいます。

(5)デジタルエコー(乳腺専用も含めて)、64列低線量CT等を様々な角度から読影、検討して気づいたことがあります。たとえば肺病変の始まる時、ほとんど症状がない時期によく見ると肺にわずかな所見の変化があるのを認めています。教科書にも載っていません、先輩に教わることもないでしょう、それらの変化は患者さんの訴え、微妙な血液、尿中のアミラーゼ値、血中トリプシン値などに結構反映されています。



4月の院長の活動

4/(水)夜間小児急病診療所 勤務 市立総合医療センター

12/(木)世界における母子と健康について 小講演 RCにて

14/(土)米山奨学会奨学生・カウンセラー・指導教官研修会

K・S 君 東京大学2年生 二相流冷却の研究

E・H 教授 東京大学人間環境学教授かつ指導教官

カウンセラーが私(院長) 1年間私が親代わりになります。

当院に来られた際はよろしく願いいたします。

29/(日)国際RC2790地区協議会 米山奨学会において留学生のS君を松戸中央RCで受け入れた次第です。

その他：予定も含めて

*5月休日3・4・5・6日 フィリピン/マニラの大学と学生及びドクターと**バコロド**の最貧困地域での人々の支援と友好、現地ドクターと会談のため、そして心の洗濯もかねて。

*6月20・21・22日 韓国、釜山小山 RC10周年記念式典に友好クラブ代表として親睦・交流のため行ってきます。(6月20日(水)が当院のお休みとなります。)



木々の緑も色濃くなり、お天気の良い日は日差しがジリジリと強くなってきましたね。気温も上昇し、湿度も高くなっていますので着る物などで体温調節し、汗をかいたら夕めの水分補給を心がけましょう♪ 担当石原



でした♪